

高校生による
「特殊詐欺防止啓発活動」
に関する報告書

2025 年度 愛知県立春日井泉高等学校

目次

活動の趣旨・経緯	2
学校概要	3
実施スケジュール、実施概要	3
活動レポート	
* 6月	
愛知県警察による「特殊詐欺防犯教室」の実施.....	4
春日井市安全安心地域アドバイザーによる「消費生活安全安心講座」の実施.....	4
* 9月	
啓発グッズの制作（着ぐるみ・ポスター・ポケットティッシュ・缶バッジ）.....	8
* 10月	
特殊詐欺防止啓発活動の実施（春日井まつり）.....	10
特殊詐欺防止啓発活動の実施（IZUMI FESTIVAL）.....	11
* 12月	
特殊詐欺防止啓発活動の実施（柿の木デイサービス訪問実習）.....	14
* 2月	
特殊詐欺防止啓発活動の報告（学習成果発表会）.....	15
各媒体における紹介	16
啓発グッズの配付実績	16
1年間のまとめ	17

活動の趣旨・経緯（全国銀行協会から）

本取組みは、学校家庭クラブ等の枠組みを活用して、生徒自身が特殊詐欺の被害が身近なところで起きている問題であることと捉え、その防止策等について理解し、生徒自身が考えた「特殊詐欺防止啓発活動」を地元地域で実践することで、生徒による社会貢献活動、ひいては地域における「特殊詐欺防止啓発活動」の自立的な広がりを期待したものである。全国銀行協会（全銀協）は本取組みに関して、支援金の拠出や、活動に当たっての各種アドバイスや資料提供などのサポートを行うこととしている。

本取組みは、①特殊詐欺の被害防止は社会的課題であり、地域社会における啓発活動が重要であること、②学校教育において、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習の重要性が高まっていること、③全銀協の金融経済教育活動懇談会（2015年2月開催）において、学校家庭クラブの活用、特殊詐欺防止をテーマとした生徒による教材制作について提言があったこと、などを踏まえ、2016年度より導入したものであり、以下のような効果を期待している。

- 金融犯罪防止啓発活動の効果…高校生が考える防止啓発活動の実践
 - 地域社会での活動の広がり…防止啓発活動の担い手の継続的な広がり
 - アクティブラーニングの実践…高校生が主体的・協働的に学ぶ学習機会の提供
 - 教育現場での認識強化…活動の重要性についての教育委員会や学校・教員の認識強化
 - 対外PR力の向上…高校生による活動報告公表による広告効果
- 10年目となる2025年度は、愛知県教育委員会下で実施校を募集し、愛知県立春日井泉高等学校に「特殊詐欺防止啓発活動」を委嘱した。

学校概要

■沿革

昭和44年 4月1日 愛知県立春日井商業高等学校として開校

令和5年 4月1日 愛知県立春日井泉高等学校に校名変更

■校訓 よりたかく

より寛く（ひろ）く より逞（たくま）しく より慧（さと）く

■教育目標

人間としての成長と発達を続けていく基盤となる力を養うとともに、国家及び社会の有為な形成者として、その発展に寄与し得るこころ豊かな産業人を育成する。

✓ より寛く礼節を重んじ、自らを律し、他と共にこころ豊かな生活を築く態度を養う。

✓ より逞しくこころや体を鍛え、いのちを尊び、生き抜く力を養う。

✓ より慧く主体的に行動するために、自ら学び深く考える力を養う。

実施スケジュール

6月	・愛知県警察による「特殊詐欺防犯教室」の実施 ・春日井市安全安心地域アドバイザーによる「消費生活安全安心講座」の実施
9月	・啓発グッズの制作（着ぐるみ・ポスター・ポケットティッシュ・缶バッジ）
10月	・特殊詐欺防止啓発活動の実施（春日井まつり） ・特殊詐欺防止啓発活動の実施（IZUMIFESTIVAL）
12月	・特殊詐欺防止啓発活動の実施（柿の木デイサービス訪問実習）
2月	・特殊詐欺防止啓発活動の報告（学習成果発表会）
3月	・活動まとめ

実施概要

生活文化科生徒と学校家庭クラブ委員会での活動を中心に、学校全体で協働して実施。

活動レポート

6月12日（木）13:30～14:10

愛知県警察による「特殊詐欺防犯教室」の実施

（講師：愛知県警察 防犯活動専門チーム のぞみ）

実際に発生している特殊詐欺やフィッシング詐欺の事例など寸劇を通して学び、家庭や地域防犯に対する知識と意欲を高めることを目的に、愛知県警察防犯活動専門チーム「のぞみ」による講義が実施された。当日は、生活文化科2年37名が参加した。

はじめに、愛知県における特殊詐欺の被害状況^{※1}を確認した。

令和6年の特殊詐欺発生件数は1,469件（前年比112件増）、被害額約41億円（前年比約14億円増）で、今年も増加傾向にあることが伝えられた。

続いて「特殊詐欺の手口と対策」を、3つの事例（寸劇と解説）を通して確認した。

①警察官を騙る詐欺

詐欺師が警察官を名乗って電話をかけてきて、「資金洗浄事件の捜査で、あなたの銀行口座が犯罪に利用されていることが分かった」などと告げ、不安を煽る。

その後、「ビデオ通話で事情聴取を行う」と伝えLINEに誘導、LINEのビデオ通話では警察手帳を提示し、被害者を信用させる。

最終的に、銀行口座の調査費用と称してネットバンキングでの振込を要求し、さらには「守秘義務が発生するため、家族を含め誰にも相談しないように」と約束させ、周囲に相談しないように仕向けてくる。

【ポイント】

- ・警察がSNSでやり取りをすることはない
- ・警察署の番号表示電話でも、一旦電話を切り家族や身近な人に相談すること

②子どもなどを騙る詐欺（オレオレ詐欺）

詐欺師が娘を名乗り電話で接触し、「会社でトラブルが発生し、その解決のために高額な慰謝料が必要になった」などと切り出し、金銭を要求。

被害者は娘を助けたい一心で、指示された通り、自宅を訪問してきた「弁護士」と名乗る人物に現金を手渡してしまう。

その後、娘本人から連絡があり、そこで初めて詐欺被害に遭ったことに気づき、警察に被害届を出す。

【ポイント】

- ・電話の相手には名前や電話番号など情報を伝えない
- ・電話でお金のお話が出たら詐欺を疑い、電話を切り本人の携帯に連絡を取り確認する
- ・詐欺を疑う電話がかかってきた場合は、近隣の警察署に相談する

③架空料金請求詐欺

身に覚えのない「利用料金の確認」メールが届き、本日中に電話連絡をするように促される。被害者が電話をすると、犯人は名前と携帯電話番号を確認した上で、「有料サイトの利用料金が未納で早急に支払わないと裁判になる」と不安を煽り、「誤登録の可能性がある」、「本日中に支払えば後日返金される」など、あたかも返金されるかのように伝え、コンビニで電子マネーカードを購入するよう指示。

被害者が指示通りに1ヶ所のコンビニで高額な電子マネーを購入できなかったことを伝え、複数のコンビニで分割して購入するよう指示し、最終的に電子マネーを購入させてしまう。

【ポイント】

- ・CAT（コンビニエンスストアオール通報）制度
令和7年4月1日から愛知県で開始された制度で、電子マネーカードの購入者の年齢が概ね65歳以上、購入金額が3万円以上、かつ購入目的が明確でない場合は、コンビニエンスストアの店員に迷わず110番通報してもらうことが目的

3つの事例から、改めて特殊詐欺被害に遭わないための対策が伝えられた。

- ・固定電話は留守番電話にしておき、相手を確認してから電話に出る
- ・被害防止機能付き電話機（相手に警告を出したり、録音できる）への買い替え
- ・NTT 西日本ナンバー・ディスプレイ、ナンバー・リクエストサービスの利用（高齢者無償）※2
- ・愛知県警察公式アプリ あいちポリス※3 県内の犯罪情報を地図上で確認できたり、防犯ブザー機能など防犯に関するコンテンツが盛り込まれている

講師からは、今日確認した特殊詐欺の手口と対策を踏まえ、一人一人が意識して行動することで、特殊詐欺被害を減らすことができる、というメッセージが伝えられた。

最後に、代表生徒から講義の感想とお礼が伝えられ講義は終了した。

※1 令和5年・令和6年 特殊詐欺認知件数の推移(令和7年6月10日愛知県警察本部生活安全総務課作成)

<https://www.pref.aichi.jp/police/anzen/documents/R6.12ninti.pdf>

令和5年・令和6年 特殊詐欺被害額の推移(令和7年6月10日愛知県警察本部生活安全総務課作成)

<https://www.pref.aichi.jp/police/anzen/documents/R6.12higaigaku.pdf>

※2 NTT 西日本が特殊詐欺対策をサポートします

<https://www.ntt-west.co.jp/product/sagitaisaku/>

※3 防犯情報まるわかり！県警公式アプリ「あいちポリス」

<https://www.pref.aichi.jp/police/anzen/anmachi/aichipolice2020.html>

【講座の様子】



【生徒の感想（抜粋）】

- ・愛知県での特殊詐欺の被害状況を知り、身近で起こっていることだと改めて感じ、他人事ではないと思った。犯人はプロなので、高齢者だけでなく若者も被害に遭う可能性があると感じた。詐欺の手口は多岐にわたり、お金だけでなく個人情報まで騙し取られるケースもあるため、今日学んだことを踏まえ、自分や家族が特殊詐欺被害に遭わないよう意識して行動していきたい。
- ・特殊詐欺は固定電話が主なイメージだったが、最近では携帯電話での被害が急増していると知り、気を付けなければならないと強く思った。
- ・CAT制度を初めて知った。コンビニエンスストアの店員が110番通報する仕組みは、非常に有効だと感じた。
- ・自宅の固定電話は留守番電話対応にする。また、祖母には被害防止機能付き電話を勧めたいと思う。

6月27日（金）9:50～10:45

春日井市安全安心地域アドバイザーによる「消費生活安全安心講座」の実施

（講師：春日井市安全安心地域アドバイザー 酒井親 様）

特殊詐欺の具体的な手口や対処法について学ぶことを目的に、春日井市安全安心地域アドバイザーによる講義が実施された。当日は、生活文化科2年37名が参加した。

はじめに、本日の講義を通して身に付けて欲しいポイント3つが講師から伝えられた。

1. 自分自身が特殊詐欺の被害に遭わないこと
2. 自分自身が特殊詐欺の加害者にならないこと
3. 家族や周囲の人たちも特殊詐欺の被害に遭わないように今日の内容を伝えること

続いて「特殊詐欺の基本的な手口」である3種類を確認した。

①オレオレ詐欺

詐欺師が親族を名乗り電話で接触し、「自分のミスで会社の金を紛失したため、補てんするためにお金が必要」と切り出し、金銭をだまし取る手口。

②キャッシュカード詐欺盗

詐欺師が警察官や金融機関職員を名乗り電話で接触し、「あなたのキャッシュカードが不正に利用されている」などと告げ、自宅にキャッシュカードを取りに来てだまし取る手口。

③警察官を騙る詐欺（預貯金詐欺）

詐欺師が警察官を名乗り電話で接触し、「あなたの銀行口座が犯罪に利用されており、キャッシュカードの交換手続きの必要がある」などと不安を煽り、預金通帳やキャッシュカードをだまし取る手口。

次に、令和6年度の特種詐欺の被害状況^{*1,2,3}を確認した。

- ・愛知県：特種詐欺認知件数1,469件、被害額約41億円で、オレオレ詐欺が最も多い
- ・春日井市：特種詐欺認知件数38件、被害額約1.2億円
- ・全国：特種詐欺認知件数は21,043件、被害額約718.8億円で、認知件数、被害総額ともに増加

全国の特種詐欺被害^{*3,4,5}について詳しく確認すると、特種詐欺の被害者は約65%が65歳以上の高齢者で、女性の被害者が約44%を占めていること、犯行に使われる連絡手段は、約79%が電話で、そのうちの約75%が固定電話であること、被害に遭った人の86%が「自分は大丈夫だと思っていた」と答えていることが講師から伝えられた。

また最近では、SNSを使った投資詐欺やロマンス詐欺が急増しており、SNSでのやりとりにも注意が必要なことも伝えられた。

続けて、初めに伝えられた特種詐欺以外の手口を確認した。

①SNS型投資詐欺

SNS上で、著名人の名前や写真を悪用した偽の広告や、「必ずもうかる」といった甘い言葉で投資を勧め、被害者をグループチャットなどに誘導。最終的に、偽の投資サイトや口座に送金させ、お金をだまし取る手口。

②還付金詐欺

年金事務所や税務署の職員を名乗り、電話で「医療費や税金の還付金があります」と持ちかける。その場で携帯電話からATMを操作するよう指示し、被害者がお金を受け取るための手続きだと思い込ませ、実際には犯人の口座に振り込ませる手口。

③架空料金請求詐欺

「未納料金が発生しています」といった身に覚えのない請求を、携帯電話のショートメッセージ（SMS）やはがきで送りつけ、インターネットサイトの事業者などを名乗り、利用していない料金を支払わせようとする手口。

④金融商品詐欺

はじめに、証券会社の社員を名乗り、「金融商品を購入するために名義を貸してほしい」と持ちかける。次に、別の詐欺師が弁護士などを名乗り、「名義貸しは犯罪になる」と脅し、問題を解決するための手数料を要求。最終的に、その手数料をレターパックや宅配便で送らせてだまし取る手口。

⑤フィッシング詐欺

実在する銀行や通販サイト、宅配業者などを装い、偽のメールやSMSを送りつけ、そこに書かれたURLをクリックさせ、偽のサイトに誘導してIDやパスワード、クレジットカード情報などを盗み取ったり、コンピューターをウイルスに感染させたりする手口。

講師からは、はじめに確認した身に付けて欲しい3つのポイントが改めて伝えられ講義は終了した。

※1 令和5年・令和6年 特殊詐欺認知件数の推移(令和7年6月10日愛知県警察本部生活安全総務課作成)
<https://www.pref.aichi.jp/police/anzen/documents/R6.12ninti.pdf>

令和5年・令和6年 特殊詐欺被害額の推移(令和7年6月10日愛知県警察本部生活安全総務課作成)
<https://www.pref.aichi.jp/police/anzen/documents/R6.12higaigaku.pdf>

※2 特殊詐欺の警察署別認知状況(令和6年中累計)【確定値】(令和7年6月10日愛知県警察本部生活安全総務課作成)
<https://www.pref.aichi.jp/police/anzen/documents/R6.12ruigetu.pdf>

※3 警察庁 令和6年における特殊詐欺及びSNS型投資・ロマンス詐欺の認知・検挙状況等について(確定値版)
https://www.npa.go.jp/bureau/criminal/souni/tokusyusagi/hurikomesagi_toukei2024.pdf

※4 警察庁 国際電話対策の強化に向けた連携
https://www.npa.go.jp/bureau/criminal/souni/tokusyusagi/sagi_keihatsu2024.pdf

※5 愛知県警察本部 地域安全対策ニュース NO.25 令和7年5月27日
<https://www.pref.aichi.jp/police/anzen/images/chitainewsR7-25.pdf>

【講座の様子】



【生徒の感想（抜粋）】

- 今までに聞いたことのない特殊詐欺の種類(キャッシュカード詐欺盗、ロマンス詐欺)などがあることや、春日井市の被害総額が約 1.2 億円ということが分かり、改めて特殊詐欺は自分が思うより身近なことだと実感した。被害に遭わないためにも、固定電話に録音機能をつける、迷惑メール対策をする、おいしい話は存在しないと思って生活し、被害者、加害者にならないようにしたいと思った。
- 被害に遭う高齢者の割合が男性より女性のほうが圧倒的に多いことに驚いた。いろいろな詐欺があり怖いと思ったのと同時に、改めて気を付けようと思った。架空請求詐欺は特に身近に感じたので、スマートフォンを使用する際は気を付けたいと思う。一人でスマートフォンを使用しているときに、メールで法的措置という文字を見たら焦ってしまい、普段通りに対処できないと思うので、事前にこのような詐欺があると知れてよかった。キャッシュカードなどをすり替える手法は、知らないと騙されてしまう詐欺なので、多くの人に知ってもらいたいと思った。

9月 啓発グッズの制作

(着ぐるみ・ポスター・ポケットティッシュ・缶バッジ)

生活文化科と家庭クラブ委員会を中心に、いずみん着ぐるみ、啓発グッズ（ポスター・ポケットティッシュ・缶バッジ）の制作を行った。

学校オリジナルキャラクターの「いずみん」は、今回の活動をきっかけに、生徒からデザインを公募し、投票によって決定したキャラクターである。愛らしいフォルムと色合い、豊かな表情や動きが相まって、小さな子どもからお年寄りまで幅広い世代に親しんでもらえるキャラクターに仕上がった。

いずみん



ポケットティッシュ



缶バッジ



ポスター



10月18日（土）、19日（日）10:00～16:00

特殊詐欺防止啓発活動の実施（第49回 春日井まつり）

春日井市役所庁舎及びその周辺で行われた「第49回春日井まつり」において、特殊詐欺防止啓発活動を実施した。家庭クラブ委員他5名が参加し、以下活動を行った。

- **特殊詐欺防止に関するポスター投票**
5種類の啓発ポスターを用意し、来場者に気に入ったポスターにシールで投票してもらう形式で、関心を引き出す。
- **特殊詐欺・闇バイトの被害に関する説明**
タブレットを使用し、特殊詐欺や闇バイトの具体的な手口、被害の現状、防止策、及び被害に遭った際の対応について、来場者一人一人に合わせた説明を実施。
- **啓発グッズの配布**
特殊詐欺防止を呼びかけるメッセージ入りのポケットティッシュ、缶バッチなどを配布。
- **学校オリジナルキャラクターによる活動アピール**
学校オリジナルキャラクター「いずみん」の着ぐるみが来場者と交流し、活動への注目度と親しみやすさを高めた。

春日井まつりは、ステージイベントや体験ブース、グルメブースなど各会場で多彩なイベントが用意され、子どもからお年寄りまで幅広い世代が楽しむことができる春日井市の一大イベントである。

開始直後よりブースには多くの来場者が訪れ、特にポスター投票には子どもたちも積極的に参加した。生徒たちは、特殊詐欺や闇バイトの具体的な手口などを、来場者に分かりやすい言葉で丁寧に説明した。来場者は、これらの説明を聞くことで、特殊詐欺や闇バイトを自分たちの身近で起こりうる出来事として捉え、被害者にも加害者にもならないためにどうすべきかを考えるきっかけになったようだ。

学校オリジナルキャラクター「いずみん」の着ぐるみは、その親しみやすい可愛らしいフォルムから子どもだけでなく大人からも人気を集め、ブースへの誘引効果と活動への注目度を高める上で大きな役割を果たした。

春日井まつりという大規模な場を通じて、多くの市民に特殊詐欺および闇バイトの危険性を再認識していただく良い機会となった

【生徒の感想（抜粋）】

- 特殊詐欺防止啓発活動を通して春日井泉高校の生徒だけでなく、保護者や友達の家族など身近な人たちにも啓発することができ、自分にも起こりうることでであると伝え、その被害を少しでも防ぐことにつながったと感じた。熱心に説明を聞いてくれる来場者も多く、嬉しかった。説明を聞いた後、啓発内容を実践しようと写真を撮る来場者もあり、この活動を実施してよかったと思った。

- いずみんの着ぐるみが来場者を呼び込むきっかけとなり、特殊詐欺防止啓発ポスター投票も多くの方に参加いただいた。ポケットティッシュなど啓発グッズの配布は今後も定期的にも実施してもよいと感じた。予想していたよりも子ども連れや高齢の方が投票に参加したり、話を聞いてくれたりしたため、この活動を実施してよかったと思っている。
- 子どもから高齢者まで幅広い年代の方に、特殊詐欺防止啓発ポスター投票への声かけを行うという活動内容だったが、人と話すのはとても楽しく、すぐに時間が過ぎていった。もし次があるならぜひまた参加したい。
- 特殊詐欺防止啓発ポスター投票に協力してもらうにはどうすればよいかを考えながら活動した。大きな声で元気よくハキハキと話すことや、最後まで目を見て呼びかけることがコツだと分かった。全く見向きもしてもらえないかなと思っていたが、多くの方がシールを貼ったりティッシュを受け取ってくれたりと活動に協力してくれてよかった。

【活動の様子】



10月22日（水）、23日（木）10:00～14:00

特殊詐欺防止啓発活動の実施（IZUMI FESTIVAL）

令和7年度愛知県立春日井泉高等学校文化祭（IZUMI FESTIVAL）で、特殊詐欺防止啓発活動を実施した。「文化部・同好会・生活文化科」発表コーナーで以下の活動を行った。

- **ポスターや特殊詐欺に関する説明資料の掲示**
生徒が作成した啓発ポスターや、特殊詐欺被害の状況や防止策などを記載した説明資料の掲示。
- **ポスター投票**
5種類の啓発ポスターを用意し、来場者に気に入ったポスターにシールで投票してもらう形式で、関心を引き出す。
- **啓発グッズの配布**
特殊詐欺防止を呼びかけるメッセージ入りのポケットティッシュを配布。
- **学校オリジナルキャラクターによる活動アピール**
学校オリジナルキャラクター「いずみん」の着ぐるみが来校者と交流し、活動への注目度と親しみやすさを高めた。

教室の前に着ぐるみのいずみんがいたこともあり、来校者は興味を持って掲示物を熱心に確認したり、ポスター投票をしたりしていた。ポスター投票は、発表コーナーだけでなく、生徒が校内を巡回しながら実施する場面も見られた。

生徒たちは、啓発グッズを手渡ししながら、特殊詐欺の具体的な手口など、分かりやすい言葉で丁寧に説明した。来校者は、これらの説明を聞くことで、特殊詐欺を自分たちの身近で起こりうる出来事として捉え、被害者にも加害者にもならないためにどうすべきかを考えるきっかけになったようだ。

文化祭という場で、特殊詐欺の手口を他者に分かりやすく伝えることで、生徒自身の理解が深まり、保護者など幅広い年代の来校者とコミュニケーションを取ることで、社会性を養う良い機会となった。

【生徒の感想（抜粋）】

- 多くの生徒や先生方、そして来校された保護者に対し、特殊詐欺防止啓発ポスターの投票を依頼したり、特殊詐欺に関する情報を分かりやすく説明したりすることができた。声をかけた人たち全員が積極的に投票に協力し、また熱心に説明を聞いてくれたことは嬉しかった。
- この活動を通して、今まで関わることのなかった人たちと交流することができた。多くの人が特殊詐欺防止啓発ポスターの投票に協力してくれて嬉しかった。いずみんの活躍もあり、特殊詐欺防止啓発活動を実施してよかった。
- 春日井まつりの活動に不参加だった生徒も今回の活動に参加することができ、生徒や先生方、保護者など、幅広い年代の方々に特殊詐欺防止に関する話を聞いてもらうことができた。この経験はとても良い経験になったと思っている。
- 話す内容を準備していても、現場で思い通りに動けることは少ないと実感した。しかし、今回の活動はいずみんの呼び込み効果もあり、多くの人が参加してくれた。特殊詐欺防止啓発ポスターへの投票は、担当者それぞれが積極的に声かけを行った結果、成功につながったと思う。

【活動の様子】



12月15日（月）13:30～15:00

特殊詐欺防止啓発活動の実施（柿の木デイサービス訪問実習）

生活文化科2年の生徒33名が、「柿の木デイサービス」を訪問し、利用者を対象とした訪問実習の中で特殊詐欺防止啓発活動を実施した。

この訪問実習は、地域社会との交流や実践的な活動を通じて、生徒の職業理解や進路選択を支援する春日井泉高等学校の特色ある学びであり、生徒たちは、福祉施設で「介護」の分野を体験する。

事前に話し合いを重ね、利用者が楽しく活動ができるようレクリエーションの内容や接し方などを検討し、生徒たちは訪問実習に臨んだ。

7班に分かれ、それぞれ季節を感じられる「福笑い」を行ったが、利用者と生徒という立場を超え、終始共に楽しい時間を過ごす仲間のような関わりが見受けられた。

和やかな活動の最後に、特殊詐欺について利用者に分かりやすい言葉で丁寧に説明し、啓発グッズのポケットティッシュを配付した。利用者は、改めて特殊詐欺が身近で起こりうる出来事として真剣にとらえ、被害防止について考える貴重な機会となったようだ。

【生徒の感想（抜粋）】

- 学校で作成した特殊詐欺防止啓発のポケットティッシュを配付した際、利用者からの「キャラクターがかわいい」、「気をつけないと」という好意的な反応から、啓発内容がしっかり伝わったことを実感した。今回の活動を通じ、身近なグッズで注意喚起をする重要性を確認することができた。また、高校生でも地域の役に立てることが実感でき、今後も人の役に立つ行動を大切にしたいという意識が高まった。
- ポケットティッシュを手渡した際に、利用者の方は嬉しそうに受け取ってくださった。しかし、ミニチラシは文字が小さく読みにくい部分があったため、私たちが読み上げて、特殊詐欺防止の内容を説明して伝えた。高齢の方にとっては、文字の大きさやデザインによって情報が伝わりにくくなる場合があると改めて感じた。高齢の方にも読みやすいチラシであれば、自分で内容を確認できたという喜びや自信につながり、それが生きがいの一つになるのではないかと考えた。
- 私は司会を担当したため、利用者の方に直接啓発グッズを手渡す機会はなかったが、全体を見て最も印象的だったのは、利用者の多くが笑顔になっていたことだ。また、生徒たちがポケットティッシュを渡す際、特殊詐欺について分かりやすく、端的に説明していた点もよかった。その説明から自然に交流が生まれていたのが印象に残った。

【活動の様子】



2月6日（金）10:50～12:40

特殊詐欺防止啓発活動の報告（学習成果発表会）

学習成果発表会にて全校生徒を対象に、4～12月までの特殊詐欺防止啓発活動について、以下の内容を発表した。

1. 実態把握と問題点の確認
 - ・ 愛知県警察による「特殊詐欺防犯教室」の実施
 - ・ 春日井市安全安心地域アドバイザーによる「消費生活安全安心講座」の実施
2. 啓発グッズ制作
3. 地域に向けた啓発活動
 - ・ 第49回春日井まつりでの啓発活動
 - ・ IZUMI FESTIVALでの啓発活動
 - ・ 柿の木デイサービス訪問実習での啓発活動
4. まとめ

活動を通して、愛知県や春日井市内における特殊詐欺被害について理解を深め、特殊詐欺の事例や具体的な対策法を学ぶことができたこと、多くの人に特殊詐欺防止について伝えることができ達成感が大きかったこと、自分自身の成長にもつながり、地域貢献にもなることから、次年度以降も本活動を継続して行ってほしい旨が伝えられた。

【生徒の感想（抜粋）】

① 発表者

- スライド作りや原稿作成にはかなり苦戦しましたが、時間をかけて準備したおかげで、本番は納得のいく発表ができてよかった。

② 参加者

- 特殊詐欺被害防止の大切さを伝えるため、今までやってきた活動が分かりやすくまとめられていてよかった。
- 分かりやすい発表だったこともあり、特殊詐欺には多くの種類があるということが理解できた。
- 特殊詐欺について多くの知見を得ることができた。今後だけでなく身近な人が被害に遭わないよう、学んだ知識を共有していきたい。

【活動の様子】



■各媒体における紹介

- 愛知県警察あんあん情報（公式 X） 2025年10月27日（月）
愛知県警察 生活安全総務課（公式 Instagram） 2025年10月27日（月）
10月18日 春日井まつりにおいて春日井泉高校家庭クラブの生徒さんと合同で特殊詐欺被害防止の広報啓発活動を行いました。

■啓発グッズの配付実績

活動／配付先	日付	ポケットティッシュ	ミニチラシ	缶バッジ
特殊詐欺防止啓発活動 春日井まつり	10/18, 19 (土・日)	800	0	300
特殊詐欺防止啓発活動 IZUMI FESTIVAL	10/22, 23 (水・木)	232	0	100
HAL-SHOP 販売実習 篠木グラウンド	11/23 (日)	100	60	0
HAL-SHOP 販売実習 JR 春日井駅	11/28 (金)	100	60	0
特殊詐欺防止啓発活動 柿の木デイサービス訪問 実習	12/15 (月)	30	30	0
PTA 役員会	2/13 (金)	40	0	0
合計		1,302	150	400

■ 1年間のまとめ

この1年間、特殊詐欺防止啓発活動を行ってきた家庭クラブ員と担当の横井教諭に、1年間の活動について振り返ってもらった。

〈生徒の振り返り〉

①活動を通して学んだこと、気づいたこと

- ・ 今回の活動では、地域の方と直接やりとりすることで、特殊詐欺が身近な問題であることを実感した。活動中には「気をつけるね」と声をかけていただくことも多く、自分たちの取り組みが誰かの役に立っていると感じて嬉しかった。
- ・ 啓発活動では、地域の方々と直接やりとりをすることで、多くの方が関心を持って話を聞いてくださることで、防犯意識を高めてもらうきっかけづくりができたのではないかと思う。また、初めての活動で不安もあったが、仲間や周囲の方々の協力があり、楽しみながら最後まで取り組むことができた。
- ・ 活動に参加する前は、特殊詐欺は自分には関係のない出来事だと思っていた。しかし、実際に地域の方々と関わりながら啓発活動を行う中で、身近なところにも危険が潜んでいることを知り、防犯意識を高める必要があると強く感じた。チラシ配布では、思った以上に多くの方が耳を傾けてくださり、地域の防犯に少しでも貢献できたのではないかと思う。

②活動を通して頑張ったこと、自分の成長や社会への貢献を実感したこと

- ・ 活動を通して得た知識を、人の役に立てたいと思う気持ちがより一層深まった。
- ・ 最初は声をかけることに緊張していたが、回数を重ねるうちに自分から積極的に話しかけられるようになり、コミュニケーションに対する自信がついた。
- ・ 声を出して呼びかけることが最初は恥ずかしかったが、徐々に慣れていき、人前で堂々と話せるようになった。相手の反応を見ながら伝え方を工夫する力も身に付いたと思う。また、社会の問題に目を向けるきっかけになり、責任を持って行動する姿勢が育ったように感じている。
- ・ 特殊詐欺に対する認識が大きく変わった。地域活動を通して多くの被害や不安の声を聞き、誰にでも起こり得る問題であると感じた。啓発活動の必要性を改めて実感した。
- ・ 人前で話す力やコミュニケーション力が向上した。限られた時間で必要な情報を分かりやすく伝えるために、言葉の選び方や話し方を工夫するようになった。また、活動を通して責任感が生まれ、自分から行動できるようになった。
- ・ この活動を経験したことで、人と関わることへの苦手意識が少しずつなくなった。積極的に声をかけたり、相手の目を見て話したりすることが自然にできるようになり、良い機会になったと感じている。

③これからの生活の中で実践していきたいこと

- ・ 自分自身が被害に遭わないよう、日頃から家族と連絡を取り合ったり、不審な電話やメッセージに注意したりする習慣を大切にしたい。
- ・ 身近に困っている人がいれば声をかけられるようにし、活動で学んだことを社会の中で実践できればと思う。
- ・ 特殊詐欺に関する情報を定期的に確認し、家族や周囲にも共有していきたい高齢者の方が危険にさらされやすいため、声かけや見守りの意識を持ち続けたい。
- ・ 今後も、より多くの人に特殊詐欺の危険性を伝え、地域全体で注意し合える環境をつくりたい。不審な連絡があった際には、すぐに周囲へ相談し、落ち着いて判断する姿勢を大切にしていきたい。

〈担当教諭の振り返り〉

本校は 2023年4月、春日井商業高等学校から春日井泉高等学校へ学科改編および校名変更を行い、新しくスタートした。本校の家庭クラブ活動は、新設された家庭科の学科である生活文化科の生徒が中心となって行っている。多くの生徒が学校の近くから通学しており、卒業後も地元に残り就職する割合が高い、地域に根差した学校である。そのため、学校と地域のつながりを深め、学びを生かして地域に貢献する活動を取り入れながら学習を進めている。

家庭科授業の消費生活分野において特殊詐欺を取り上げることもあるが、特殊詐欺に関しては予想以上に理解が浅く、典型的なオレオレ詐欺の手口についてもよく知らない生徒が見られた。ニュースや新聞では頻繁に扱われるテーマである一方、生徒たちが日常的に触れているSNSでは、特殊詐欺に関する情報が少ないことが影響しているようであった。さらに、多くの生徒は、「特殊詐欺は高齢者が狙われる犯罪」という固定的なイメージを持っており、自分たちには関係のない問題として捉える傾向も見られた。また、身近に被害に遭ったという話を聞いた経験が少ないことも、当事者意識の低さにつながっていた。

そのような中、一般社団法人全国銀行協会様より「2025年度特殊詐欺防止啓発活動」の委嘱についてお話をいただいたことは大きな契機となった。この活動は、生徒自身の生活に関連づけて学習を深めることができるだけでなく、家庭や地域社会へ学びを還元できる点にも大きな意義があり、本活動に取り組むこととした。年間を通して、主な活動を振り返りたいと思う。

警察・市役所による講義では、特殊詐欺の被害状況や手口について具体的な事例をもとに学び、生徒たちは特殊詐欺が決して他人事ではないことを実感していた。講義後には、「家族に伝えたい」、「身近なところで気をつけていきたい」という声が多く聞かれ、学びがすぐに行動へつながった点が印象的であった。近年、警察官を装ったものや副業・投資勧誘を装った詐欺などもみられるようになり、若年層もターゲットになりつつある。そのような中、まもなく社会人となる高校生に向けて様々な特殊詐欺について啓発活動を実施できたことは大きな意味があったと感じている。

啓発グッズ制作では、生徒の創造性と協働性が大きく発揮された。オリジナルキャラクター「いずみん」は生徒のアイデアから生まれ、グッズ製作においても、「どのような言葉なら多くの人に伝わるのか」、「文字のデザインやサイズなど構成をどう工夫するか」、「余白を

しっかり取る」、「メインカラーは2～3色までとする」、「どこを最初に見せ、どこへ視線を誘導するのか」など、細部にまで配慮しながらレイアウトを検討していた。生徒同士で議論しながら仕上げしており、表現力や問題解決能力の育成につながったと感じている。

その後の春日井まつりや文化祭、デイサービス訪問実習など、地域での実践的な啓発活動では、生徒たちが緊張しながらも自ら声をかけ、来場者や利用者一人ひとりに丁寧に説明する姿が見られた。活動を重ねるごとに表情が明るくなり、自信をもって説明できるようになっていく様子は、教員として非常に頼もしく感じた。デイサービス訪問では、高齢者の視点に立った情報提供の工夫（読み上げ、文字の大きさの配慮など）が、生徒自身の気づきにつながるなど、実践的な学びの深まりが見られた。

春日井まつりは特に印象的な活動となった。親子連れから高齢者まで非常に幅広い年齢層が集まるイベントであり、特殊詐欺は家族で守り合う姿勢が大切であることから、離れて暮らす高齢の親を持つ世代への意識づけにも効果的な活動となった。幅広い世代へ被害防止の啓発を行うことができ、参加した生徒も手ごたえを感じたようである。

一年間を通して、生徒が、「自分たちの学びと活動が地域貢献につながる自覚」を持ち始めたことが最大の成果である。特殊詐欺防止という社会課題に対し、自分たちができることを考え、発信する経験は、生徒にとって大きな成長の機会となった。

最後に、この活動を支えてくださった関係機関の皆様、温かい声かけをしてくださった地域の方々に心より感謝申し上げます。今回の経験を生かし、生徒たちが今後も防犯意識を持ち続け、地域に寄り添った行動ができる人へと成長していくことを願っている。